



# 館長だより

山形県産業科学館

令和8年2月13日(金)

発行 館長 加藤智一

## エンゲル係数再び!!

「エンゲル係数」については、昨年9月の「館長だより第291号」で、山形市の現状について語させていただきましたが、今回は、そもそもエンゲル係数とは何かというテーマで、深掘りさせていただきます。

エンゲル係数という言葉が、ここ数年ふたたび注目を集めるようになりました。ニュースでも「エンゲル係数の上昇が家計を圧迫している」といった表現をよく耳にします。そもそもエンゲル係数とは何を示す指標なのか、そしてなぜ今になって話題になっているのか。家計の実感と結びつけながら考えてみたいと思います。エンゲル係数とは、家計の消費支出のうち「食費」が占める割合を示す指標です。計算式は単純で、 $食費 \div 消費支出 \times 100\% (%)$ 。19世紀のドイツの統計学者エルンスト・エンゲルが「所得が低いほど食費の割合が高くなる」という経験則を示したことから、この名がつきました。食べることは生きるために不可欠で、どんなに収入が少くとも食費はゼロにすることはできません。そのため、収入が低い家庭ほど、どうしても食費の比率が高くなりやすいということになります。逆に収入が増えると、食費の絶対額は増えても、旅行や教育、趣味など他の支出が増えるため、食費の割合は下がる傾向があります。こうした性質から、エンゲル係数は「生活にどれだけ余裕があるか」を測る一つの目安として使われてきました。では、なぜ今エンゲル係数が上昇し、話題になっているのでしょうか。その最大の理由は、食料品価格の上昇です。近年、世界的な原材料価格の高騰、円安、物流コストの増加などが重なり、食品の値上げが相次ぎました。家計の中でも食費は毎日のように発生する支出であり、値上げの影響を最も実感しやすい分野です。たとえ収入が増えていなくても、食費が上がればエンゲル係数は自然と押し上げられます。もう一つの理由は、食費以外の支出が抑えられていることがあります。コロナ禍以降、外出や旅行を控える傾向が続き、娯楽費や交通費などが減った家庭も多いことでしょう。支出全体が減ると、相対的に食費の割合が高くなるというわけです。つまり、食費が増えたからだけでなく、他の支出が減ったこともエンゲル係数の上昇に影響しているのです。さらに、近年の生活スタイルの変化も無視できません。共働き世帯の増加により、調理の手間を省くために総菜や冷凍食品、外食

を利用する機会が増えています。これらは自炊よりも割高になりやすく、結果として食費が膨らむことになります。健康志向の高まりで、質の高い食材やオーガニック食品を選ぶ人が増えていることも、食費の上昇につながっていると考えられます。

では、エンゲル係数が高いとはどういう意味を持つのか。一般的には「生活に余裕がない状態」を示すとされます。食費の割合が高いということは、食べるに家計の多くを割かざるを得ず、教育費や娯楽費、貯蓄などに回す余裕が少ないということを意味します。特に、エンゲル係数が急に上がった場合は、物価上昇や収入減など、家計を取り巻く環境が悪化している可能性が高いと言えるでしょう。ただし、エンゲル係数は万能の指標ではありません。たとえば、食にこだわり、外食や高級食材に多く支出する家庭は、収入に余裕があってもエンゲル係数が高くなります。また、支出全体が減った結果としてエンゲル係数が上がる場合もあります。つまり、エンゲル係数だけで生活の豊かさを判断することはできず、あくまで家計の傾向をつかむための一つの目安として捉える必要があります。それでも、エンゲル係数の上昇が注目されるのは、物価上昇が家計に与える影響を端的に示す指標だからです。食費は誰にとっても避けられない支出であり、その割合が増えるということは、生活の基盤が揺らぎつつあることを意味します。特に低所得層ほど影響が大きく、社会全体の格差や生活不安の広がりを映し出す鏡にもなります。エンゲル係数の動きを知ることは、家計の現状を客観的に把握する手がかりになります。自分の家計のエンゲル係数を計算してみると、支出のバランスや生活の変化に気づくこともあるはず。今なぜ注目されているのかを理解することで、物価上昇の中でどのように家計を守るかを考えるきっかけにもなるのです。

